資料５

令和５年度　子どもたちの豊かな学校生活のために

～いじめ解消・暴力根絶旬間（第１回）～　の取組結果について

取組の目的

〇児童・生徒自身がいじめに気付き、いじめを自分のこととして考え、行動することをとおして、自らいじめを解消する力を身に付けること。

〇児童・生徒が主体的な取組を図れるよう各学校で創意工夫を図るとともに、いじめの実態を把握するためのアンケートを必ず実施し、いじめの未然防止と早期解決に向けた取組を強化し、地域・保護者への啓発を図ること。

実施期間

令和５年６月１日（木）から６月 30 日（金）の中で、適切な時期に１週間から 10 日間程度

１．調査期間におけるいじめの認知件数

・小学校におけるいじめの認知件数 817 件であり、児童 1000 人あたりのいじめの認知件数は 96.9 件である。

【参考】過去同時期の調査…令和４年度 90.0 件、　令和３年度 79.8 件、令和２年度 91.5 件

・中学校におけるいじめの認知件数は 51 件であり、生徒 1000 人あたりのいじめの認知件数は 13.7 件である。

【参考】過去同時期の調査…令和４年度 13.0 件、　令和３年度 15.9 件、令和２年度 12.6 件

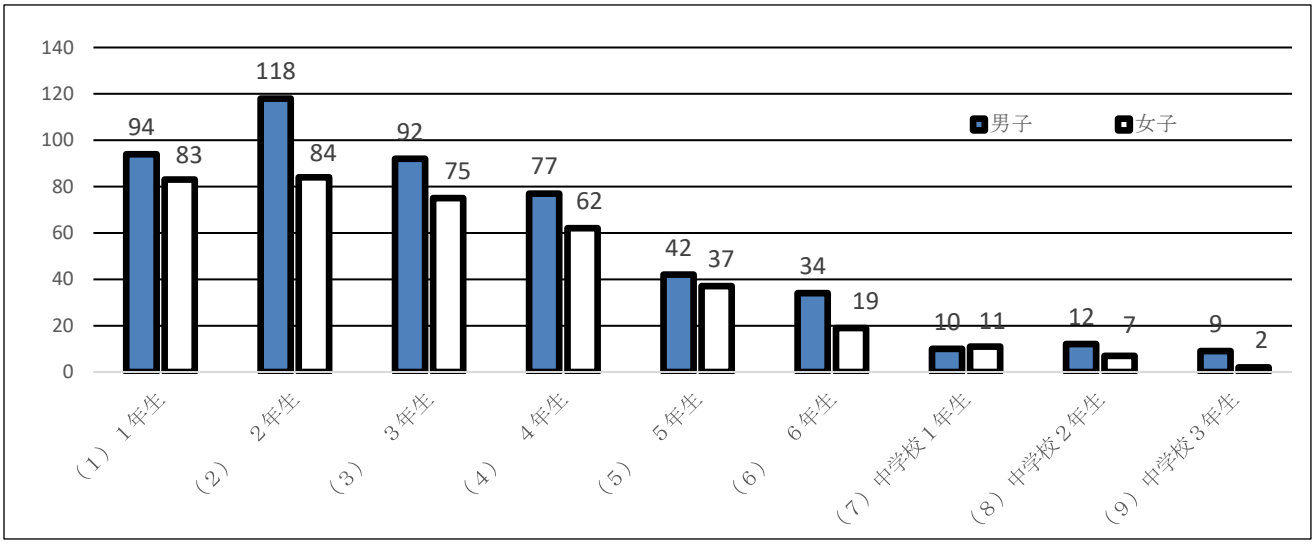
２．調査期間におけるいじめの現在の状況

＜いじめの解消率＞（令和５年７月末現在）

・小学校におけるいじめの認知件数 817 件中、解消済は 755 件で解消率は 92.4%である。

・中学校におけるいじめの認知件数　51 件中、解消済は　35 件で解消率は 68.6%である。

３．調査期間におけるいじめの認知件数の学年別，男女別内訳



・児童・生徒 1000 人あたりの認知件数で比較すると、小学校は近年で最も多く、中学校は昨年よりも多い。また、立川市内で、いじめの認知件数０件の学校はないが、認知件数１件だった中学校が数校ある。

・７月末現在の解消率は、小学校は９割を越えている。中学校は約７割である。

・認知件数は、学年が上がるにつれて減少する傾向があり、男女とも小学校２年生が最も多い。

４．調査期間におけるいじめの発見のきっかけ

	小学校		中学校	
ア、学級担任	46	5.6%	1	2.0%
イ、学級担任以外の教職員	0	0.0%	0	0.0%
ウ、養護教諭	0	0.0%	0	0.0%
エ、スクールカウンセラー等の相談員	0	0.0%	0	0.0%
オ、今回のアンケート調査（A）	636	77.8%	43	84.2%
カ、本人からの訴え	106	13.0%	6	11.8%
キ、本人の保護者からの訴え	17	2.1%	1	2.0%
ク、本人を除く児童・生徒からの情報	9	1.1%	0	0.0%
ケ、本人以外の保護者からの情報	3	0.4%	0	0.0%
コ、地域の住民からの情報	0	0.0%	0	0.0%
サ、学校以外の関係機関からの情報	0	0.0%	0	0.0%
シ、その他（匿名の投書など）	0	0.0%	0	0.0%

５．（A）今回のアンケートにより発見したいじめの態様　＊複数回答可

小学校 739　中学校 48	小学校		中学校	
冷やかしやからかい，悪口や脅し文句，嫌なことを言われる。	380	51.4%	32	66.6%
仲間はずれ，集団による無視をされる。	85	11.5%	5	10.4%
軽くぶつかられたり，遊ぶふりをしてたたかれたり，蹴られたりする。	185	25.0%	5	10.4%
ひどくぶつかられたりたたかれたり，蹴られたりする。	0	0.0%	0	0.0%
金品をたかられる。	1	0.1%	1	2.1%
金品を隠されたり，盗まれたり，壊されたり，捨てられたりする。	17	2.3%	3	6.3%
嫌なことや恥ずかしいこと，危険なことをされたり，させられたりする。	48	6.5%	1	2.1%
パソコンや携帯電話等で，ひぼう・中傷や嫌なことをされる。	5	0.7%	1	2.1%
その他	18	2.5%	0	0.0%

６．（B）今回のアンケート以外で発見したいじめの態様　＊複数回答可

小学校 212　中学校 11	小学校		中学校	
冷やかしやからかい，悪口や脅し文句，嫌なことを言われる。	129	60.8%	8	72.7%
仲間はずれ，集団による無視をされる。	19	9.0%	1	9.1%
軽くぶつかられたり，遊ぶふりをしてたたかれたり，蹴られたりする。	39	18.4%	1	9.1%
ひどくぶつかられたりたたかれたり，蹴られたりする。	2	0.9%	0	0.0%
金品をたかられる。	0	0.0%	0	0.0%
金品を隠されたり，盗まれたり，壊されたり，捨てられたりする。	5	2.4%	0	0.0%
嫌なことや恥ずかしいこと，危険なことをされたり，させられたりする。	9	4.2%	0	0.0%
パソコンや携帯電話等で，ひぼう・中傷や嫌なことをされる。	0	0.0%	1	9.1%
その他	9	4.3%	0	0.0%

・いじめ発見のきっかけは、小・中学校ともに「今回のアンケート調査」によるものが最も多い。また、一部、「学級担任」や「本人」、「保護者」、「本人以外の児童」も発見のきっかけになっている。
・今後も定期的かつ継続的なアンケート実施により、いじめの早期発見・解決の徹底を図ることが重要である。一方、学年が上がるにつれて認知件数が減ることから、教職員が児童・生徒を注意深く観察したり、保護者に協力を呼びかけたりするなど、アンケート以外でも早期発見を意識した取り組みを行うことが重要である。
・いじめの態様では、アンケートによる発見・アンケート以外による発見のどちらについても、「冷やかしやからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる」行為が概ね半数以上を占める。また、小学校では、「軽くぶつかられたり，遊ぶふりをしてたたかれたり，蹴られたりする」行為が一定の割合を占める。
・児童・生徒のコミュニケーション力の向上を図るとともに、児童・生徒同士のトラブルを自分たちで解決できるようにする指導も必要であると考えられる。

７．いじめ解消・暴力根絶旬間における学校の具体的な取組　＊自由記述

小・中学校共通

①全校朝会などで、校長や生活指導主任による講話を行った。
②全学級で、いじめ解消・暴力根絶に係るアンケート調査及び聞き取りを実施し、実態把握に努めた。生活指導主任や管理職への報告を徹底し、児童・生徒への聞き取りや面談、事後指導をした。
③生活指導上の問題や児童・生徒から聞き取った内容等を、教職員間で共有する機会を定期的に設けた。また、共有した情報をもとに、組織的に対応した。
④特別の教科　道徳を中心に、いじめ防止の授業を実施した。（友情・信頼、思いやり、よりよい学校生活、生命尊重、「いじめユニット」の活用、いじめをなくすためにできることを考える、SOS やヘルプの出し方、相談の大切さ、相談窓口の紹介　など）
⑤いじめを絶対に許さないことを、各学級で指導した。（言葉遣い、暴言・暴力、悪口・陰口、相手に気持ちを伝えることの大切さ、友達とのかかわり方、「いじめ防止のためのリーフレット」の活用　など）
⑥「早期発見チェックシート」を活用して普段の指導を振り返るとともに、ふれあい月間「実践シート」を印刷して、全職員に周知した。
⑦校内研修や職員会議において、いじめの定義や重大事態への対処等の確認を行った。学校いじめ防止基本方針を見直し、一部改訂した。
⑧「いじめ解消」や「豊かな心」をテーマにした標語を作成して発表したり、「友達のよさ」や「言われて嬉しかったこと」などを集めた掲示物を作成したりするなど、児童・生徒の心を耕す活動に取り組んだ。
⑨スクールカウンセラーや学級担任による個人面談等を実施した。
⑩休み時間や掃除の時間、登下校の時間など、児童・生徒の様子を注意深く見守り、小さな変化に気付けるようにした。また、日頃から様子を記録するようにした。

小学校

・児童と過ごす時間や会話する機会を増やし、児童理解に努めた。
・教室に居場所ができるよう、児童同士が、いろいろな友達とかかわり、仲良くなれるようなきっかけづくりを行った。
・児童の居場所として、休み時間に校長室を開放した。
・学校便りや保護者会などで、いじめの定義を周知するなど啓発を行った。

中学校

・いじめ相談窓口を設置した。また、休み時間や放課後に面談を実施した。
・意識的に生徒とのかかわりを増やし、相談しやすい環境づくりに努めた。
・生徒がアンケートに答えやすいように環境を整えた。
・不登校生徒や不登校傾向の生徒についてアセスメントを行った。

・①～⑩については、小・中学校ともに複数の回答が見られた項目である。この共通の項目は、昨年度よりも増えている。（昨年度⑥項目）
・「小学校、中学校ともに独創的で有効性を期待できる取組がなされており、こうした取組を共有し、実態に応じて取り入れていくことが大切である。」との昨年度の考察を受け、各学校が、他校の実践を参考にして、いじめの未然防止・早期発見・早期解決に向けた取組を実施してきた成果と言える。
・方法に若干の違いはあるが、小・中学校ともに、児童・生徒の居場所づくりや絆づくり、相談しやすい環境づくりに取り組んでいる。いじめ防止だけでなく、不登校児童・生徒への支援という意味からも、こうした取組を一層広げていくことが求められている。